

令和元年度 月島第二小学校自己評価報告書

中央区立月島第二小学校 住所 中央区勝どき1-12-2

校長 鈴木 政博

児童数 590名 学級数 20 教職員数 53名

教育目標

○ 心の豊かな子ども ○ よく考える子ども ○ たくましい子ども

1 今年度の達成状況と取組状況

重点目標1 「勉強を教えてくれるから、学校が好き」 確かな学力の向上を図る

評価項目：全ての児童にとって、分かりやすい授業への授業改善

- (1) 評価項目の①については、児童、教員、保護者、外部評価委員の肯定的評価80%を大きく上回り達成できている。また、③④においても肯定的評価80%を大きく上回り達成できている。②に関しては肯定的評価80%を上回りはしているものの他項目(①③④)に比べると割合的に少し下がるためある意味今後の課題となると捉えている。今後も肯定的評価が下回らないよう、指導の工夫や改善を行っていくようにする。
- (2) 評価項目②においては、保護者からのアンケートの結果から、ICT機器の活用を望む声が昨年度同様に見られる。学校全体でICT機器活用の指導の改善や研修を行うなどし、教員のスキルアップを図る等の工夫を行っていく。
- (3) 評価項目の④では、児童アンケートの結果から児童が習熟度別少人数の授業に概ね肯定的な評価をしていることが分かった。同様に保護者からのアンケートの結果からも本校の算数科における少人数指導においては、90%以上が肯定的な評価を行っていることが分かった。これらの結果から、算数科で学習した内容を児童が理解し基礎基本の定着を図るためには本校の少人数の取組が有効であると受け止められていることが分かった。学力向上への最重要の取組の一つとして今後も継続していく。また、「東京ベシック・ドリル」を活用した放課後の補習活動「さんすう塾」を行うことを続け、今後も個に応じた指導の工夫を展開していく。
- (4) 本校の校内研究である「授業のユニバーサルデザイン化」においては、児童が安心して過ごせるための教室の環境整備や、分かりやすい授業を目指した授業改善の取組を実施することができた。児童、教員、保護者、外部評価委員の評価が、80%以上という肯定的な評価を受けている。今後も「どの子にも分かる授業」を目指し取り組んでいく。

重点目標2 「へんじ・あいさつ・あとしまつ」 礼儀正しい子どもを育てる

- (1) 評価項目①②③について、児童、教員、保護者、外部評価委員の肯定的評価80%が達成された。「へんじ」や「あいさつ」では「大きな声で行う」「気持ちのよい声で行う」など、児童は、相手を意識して礼儀正しい行動を取ることができている。また上学年の児童が行うことで下学年の児童もお手本にし校内全体に広がっていくと考える。これらの行動を認め励ましながら定着化を図っていく。
- (2) 80%以上が児童の「あとしまつができている」と教員の中では感じている。児童に目を向けると「学校の約束は守る」「みんなでする物は大切に使う」「友達となかよく生活する」ことについて80%以上が肯定的に自己評価している。これらの結果から「あとしまつ」や「約束を守る」ことなどがしっかり行われていることが分かる。この力が身に付いていると「豊かな人間関係の育成」や「規範意識の向上」につながり、児童

の成長が見られると考える。今後も本校児童の良さをさらに伸ばす指導の工夫に努めていきたい。

重点目標3 特色ある教育活動の充実

(1) 評価項目を振り返って

- ① マ이스クールスポーツ「なわとび」は年間を通して推進し、児童の体力の向上を図ることに有効であった。子どもたちの持久力の向上につながっている。
- ② ハートフル学習の充実はP T Aの協力も得て、様々な取組ができた。ボランティア委員会を中心に、カンボジアへの文具寄付の他、ユニセフを通じて募金活動を今年度も展開できた。日常活動として、今後も継続していく。
- ③ 第5学年が環境学習の成果を「子どもとためす環境まつり」で展示発表を継続している。また、たてわり班活動として行う地域での清掃活動を今後も継続していく。
- ④ 「体力調査」の結果を受け、日常の運動に親しむ活動や体育の学習での取組内容を工夫してきた。本校のマイスクールスポーツであるなわとびで、持久力を高めることもその一つであり継続をしている。全校の取組として「なわとび検定」を実施している。今後も児童がなわとびの技能を高め磨き合う姿が年間を通し見られるようにしていく。また、オリンピック・パラリンピック学習では、児童アンケートの結果から、児童の関心を高めることができたと考えている。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

家庭や地域との連携

- (1) ホームページについては保護者アンケート、教員の自己評価とも今年度も改善が必要であることが明らかになった。ホームページと合わせ、学校便りである「たより月二」や、学年だより等、学校からの情報提供の内容について工夫を行っていくようにする。
- (2) 保護者アンケートから、学校の地域を生かした教育活動に対して肯定評価が80%以上と高い。今後も家庭や地域との連携を図るためにも、学校は、P T Aや地域行事へ積極的に参加すると共に、保護者には学校行事・保護者会等への協力を依頼して、相互の連携を図ることを積極的に進めていくようにする。

3 今後の改善策

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」で、確かな学力の向上を目指す授業改善
 - ・全ての児童にとって「分かる」授業づくりを行う。
 - ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、教室環境の整備を行う。また、教材教具や授業展開等も、ユニバーサルデザインの視点で工夫し実施する。
 - ・I C T 機器の活用を行う。
 - ・「考える」と「話し合う」等、学習形態の工夫でより学習内容の理解を深める。
 - ・教師同士の高め合いを研修等を通し行い授業力の向上を図る。
- (2) 「へんじ・あいさつ・あとしまつ」を行い、自分を、相手を、みんなを大切にする。
 - ・大きな声で、返事をする、気持ちのよいあいさつをする、後始末を進んで行うことを児童に励行する。
 - ・相手の立場に立って、礼儀正しい行動をとる。

- ・「へんじ・あいさつ・あとしまつ」の3つを柱に、家庭・学校・地域で連携をとり、大人も一緒になって実践していく。

(3) 特色ある教育活動にオリンピック・パラリンピック教育との関連を図る。

- ・中央区版一校一國運動として、カンボジアについての交流をさらに深める。その際には「東京2020大会」を視野に入れた活動計画になるようにする。
- ・「なわとび」の推進とともに、日常的な「運動」を学校生活に取り入れる。
- ・環境教育を生かした実践的なエコ活動に、地域との連携を図りながら、学校全体で取り組む。

(4) 学校の教育活動の発進力を高める

- ・本校の教育活動や児童の活動について保護者や地域に発信する。
- ・教育活動への保護者の協力を得られるような取組の工夫を図る。
- ・家庭・地域・学校が連携を深め、協働しながら、児童一人一人の成長を促す指導を推進する。